平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2690600057		
法人名	医療法人　三幸会		
事業所名	ケアサポートセンター市原野		
所在地	京都市左京区静市市原町１２２３－６９		
自己評価作成日	平成25年	評価結果市町村受理日	平成25年8月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2690600057-00&PrefCd=26&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人　京都ボランティア協会
所在地	600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町８３－１「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	平成25年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

小高い丘の上に建ち、山並みが見えて景観が良い。
リビングから見える四季折々の自然の風景を感じられる。
ご利用者に自宅で生活しているように感じて頂けるよう支援している。
ご家族の面会も多く、家族との関係が常に結ばれているように取り組んでいる。
ご家族に実家に帰ったように来て頂けるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

住宅街の坂道を登った小高い丘のほぼ頂上にあり、眼前に拡がる山々の景観が美しく心和む静かな環境である。開所して4年目であるが、昨年自治会の役員を引き受け、様々な行事や運営に参加したことで事業所に対する理解も深まり近所の方が声を掛けてくれるようになったり、回覧板を中まで持ってきてくれるようになるなど、なじみの関係が出来、うまく地域に溶け込んだ事業所となっている。山の斜面を利用して季節の花や農作物も楽しみに育て収穫もできるようになった。利用者はフローリングの明るい開放的なリビングの食堂やソファーで思い思いに過ごし、職員が家族のように寄り添っている。「実家に帰ったようなくつろげる場所」をモットーにし実践している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念 ①自分らしさを大切にして、暮らして頂けるように支援致します。 ②楽しく、笑顔があふれ、寄り添って頂けるように致します。 ③ご利用者、ご家族、スタッフがどんなことでも話し合える家族となれるように支援致します。 ④地域の方々とのふれあいを大切にしながら、少しでも地域に馴染んでいただけるように支援致します。 開設時よりこの理念を玄関に掲げ、職員はこの理念を共有して実践につなげています。	開設当初、職員で考えて作った理念を玄関、事務所内に掲げ、いつでも確認出来るようにしている。理念を理解することは「ケアの第一歩」であると考えており、研修の際には必ず話題に出し、考える機会を持つようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	顔見知りの方が増えてきて、挨拶や声を掛けて頂けるようになってきた。また、近所の方、子供達も訪ねてきて頂けるようになってきた。地域の行事には参加出来るように支援しています。	昨年度自治会の役員を務め、月一回の会議や町内の清掃、消防・AED訓練会場にもなり参加する機会を持ったことで近所の方とも顔なじみになり身近に感じて訪ねてくれるようになった。地域の祭りや運動会にも参加し交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	H24年度は、自治会（篠坂町）の役員を務めさせて頂きました。 地域の方々との交流を努める。 市原野社会福祉協議会への参加。 洛北福祉まつりへの参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の生活の様子・行事・事故報告等も含め報告している。参加者からの意見やアドバイスを頂いている。 市原野社会福祉協議会の方に参加のお願いをしていきたい。	家族代表1～2名、地域包括支援センター職員、民生委員が参加している。報告事項が中心であるが、自治会役員になることもこの会議でアドバイスを受けたことがきっかけとなっており大きな成果となっている。	会議録は報告事項がとても詳しく書かれているがメンバーの意思・反応について殆ど記載されていないので決定事項の経過が見えにくい。発言者とのQ＆A形式で記載するなど様式の工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市原野地域包括支援センターとの連携を中心に市，区との連携を図れるようにしている。認知症あんしんサポーター養成講座への参加。 徘徊模擬訓練等の参加に努めている。	報告・記録物は持参し、直接市や区に報告することで担当者となじみの関係になれるようにしている。また「市原野徘徊ネットワーク」の立ち上げ・地域の小学生対象の認知症安心サポーター養成講座の手伝い（寸劇や地元の方とロープレを開催）を行い、常日頃より連携を図れるようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関、リビングの施錠はしていない。職員は身体拘束防止マニュアルを　認識して共有している。 ご利用者、ご家族に不安な事、要望に耳を傾け、ご利用者の安全確保に努めている。	法人内研修に参加し、参加出来なかった者には伝達研修を行なっている。各職員に身体拘束防止マニュアルの閲覧の徹底と会議の際にも職員同士確認し合っている。日中施錠はせず、外に出る傾向にある方には職員がさりげなくそばに付き添い対応している。また職員のストレスのフォローのため管理者はスーパーバイザーとして、ヒヤリングを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで、その人らしい暮らしが尊重されるように話し合っている。また、法人内・外の接遇研修に参加している。今後も、事例を通して、身体拘束、虐待防止への学習をしていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修項目にも挙げられており職員の知識を深めるよう努めている。 後見人の方と情報交換を密にして、利用者のよりよい支援に繋げていく。 権利擁護制度の学習会の計画をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書に沿って説明させて頂いている。不明な点があれば、尋ねて頂き、対応している。契約変更があった際も、速やかに説明して理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケア・課題について家族の面会時に、家族と一緒に考え相談している。 ご利用者、ご家族、職員に向けたアンケートを実施。アンケート結果を真摯に受け止め改善出来るよう努めている。	個々の家族の面会頻度が高く関係を深めやすい状況にある。また今年初めてご家族に向けてアンケート調査を行なった。今後も年1回の実施を続けていく予定である。一方評価のアンケートでは不満の意見もあったので、本音の意見を聞くのには不十分であり工夫が必要と思われた。	アンケートだけでなく、サービス担当者会議の日時を伝え参加してもらったり、行事のお知らせをまめにするなどし情報を提供し共有していき、家族を巻き込んだ運営をされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回開催し運営に反映させている。 自主性の尊重、行事、レクリエーションの企画、実施に取り組んでいけるようになってきた。	職員会議を月一回開催している。会議の中で「よりゆっくり一人一人に合わせた入床介助が出来るように」という意見を基に、意見を出し合い、遅出時間を遅くするよう勤務時間を変更するなどサービスの向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人が取り組んでいる。 必要に応じて、職員の要望、意見を聞くようにしている。 残業はほとんどなく、有給も取りやすくしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で年間計画を立て、研修を実施している。 定期的に勉強会を実施している。 資格取得の援助、支援も行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への出席や、法人、管理者との交流の機会をもっている。 京都市北ブロック会議への出席で同業者との情報交換、勉強会をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に面会させていただき、お話をし、その方の今の状態を知り、施設からその方の情報をアセスメントする。 時間をかけて信頼関係を築く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学をして頂き、施設の生活を知っていただく。 不安な事、要望に耳を傾け、どんな事も、相談して頂ける信頼関係作りに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、サービスの説明を行い、必要に応じて家族やケアマネージャーと相談し対応している。また、パンフレット、申請書を送付している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なこと、出来ることの役割を発揮して頂き、職員と一緒に過ごせる日常生活を支援している。助けて頂いている感謝の気持ちを持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの相談を受けた際、必要なアドバイスを行い、職員と互いに協力し合える信頼関係を築いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と一緒に自宅に外出して、家族の時間を過ごされたり、家族との外食の時間を持たれたり、ホームの昼食を一緒にされたりと繋がりをもたれている。 古い馴染みの友人、知人、親戚も訪ねていただけている。繋がりを途切れないようにもてなすようにしている。	友人が訪ねて来て絵手紙を持ってきてくれたりお花の教室を開催したりしてくれている。また昼食に誘い、共にすることもある。友人も高齢のためその人が顔を見せない時は事業者から、安否確認の電話をするなどきめ細かい配慮がなされている。「馴染の鰻やの鰻を食べに行きたい」など個別に行きたいところにも一緒に行くようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し座席の配慮をしている。職員が間に入り、うまく折り合いをつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、終了者（退所者）はおられないが、これまでの生活、状態、思いを情報提供して、ご本人やご家族のフォローし継続した支援が出来るよう努めていきたい。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いを引き出すように心掛けている。	入所時、本人・家族とセンター方式を利用し時間を掛けて思いの聞き取りを行なっている。職員によって聞ける情報が違うことも大いにあることから、複数の職員で多角的に情報を聞き取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に尋ねたり、家族に尋ねたり、日々の訴えなどをヒントに情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム、習慣、自分の時間の過ごし方、出来る事、出来無い事、好き嫌いなどを把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見、要望を反映出来るようにし、日常収集した情報を記録に残し、他職種との連携、意見交換を行い、職員間で共有してケースカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	職員全員の意見を聞いて介護計画を作成するようにしている。全員出席は困難なため一人につき2日に分けて行う。前日の参加者の意見を基にカンファレンスを行なった上で作成している。モニタリングは3カ月ごとに行なっている。	日々の経過記録の中にプランの根拠となる情報が少ない。プランに則したサービス提供の意識づけが出来るようにプラン内容に沿った記録が行えるよう記録様式の工夫を期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察記録に利用者の言動・様子・気づきを介護計画に沿って記録し、見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	思いがけない発見があったり、その時々で柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れ。近所の方の来訪。 町内、地域のイベントの参加。 消防に協力して頂き、地域の方の参加で消防訓練、救命講習の実施。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族との同行受診。必要に応じてかかりつけ医との連携をとっている。訪問診療で24時間の医療連携体制を整えている。	連携している診療所からの訪問診療があり24時間オンコール体制にある。今までのかかりつけ医に家族同行で通うことも可能で情報提供を行なっている。月2回訪問歯科診療もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護と24時間対応で協力して、適切な受診を出来るよう体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時の情報交換をしている。 主治医との情報交換、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時、終末期の対応を家族と話し合いを行なっているが、実際にその状況になってからの判断になる。 ターミナルケアについて職員の研修やマニュアルを活用し職員と話し合っている。	看取りの経験はないが重症化や終末期に向けた指針、マニュアルがありケアカンファレンス時に職員で確認している。本人家族の希望があれば主治医と連携して、家族とその都度話合って、対応する用意はある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿った行動を周知徹底している。 定期的に消防署の指導の元、消防訓練時にAEDの講習を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域の消防団に協力して頂き、避難訓練を行なっている。 地域の避難訓練に、ご利用者と一緒に参加する。 地域の防災避難訓練に参加する。	町内の地震想定の避難訓練に参加。消防署・地域の消防団の協力のもと、夜間想定も含め年2回避難訓練を行なっている。利用者9名の3日分の食料・水・缶詰等の備蓄を準備している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるご利用者に敬意を持って接する。尊敬することもたくさんあります。入浴、トイレ誘導時には、配慮ある声かけをして、注意を払う。	接遇の研修を行い、日頃から個人の尊厳を大切にするよう心がけている。排せつ介助の際は本人の羞恥心に配慮し、可能な限り誘導のみ行ない、終わった頃合いを見て声掛けするなど一人一人の状態に合わせた援助を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分のペースで生活出来る環境づくり、いつでも自分の思いが言えるような関係作りをする。 じっくり話を聞き、どうしたいのかを自分で決めて、納得してもらう。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活なので、ある程度の決まりごとがあるがご利用者の意見を尊重し、支援している。 訴えが少ないご利用者には、積極的に関わるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日、着る衣類やアクセサリーはできるだけご自分で選んでもらう。入浴時の着替えの服も一緒に選んで頂いている。 理容・美容は、訪問理容を2ヶ月に1度の利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を聞いたり、その方の出来る範囲で食事の手伝いをお願いしたり、包丁を上手に使われる方、簡単な下準備が出来る方、盛り付けをしてくださる方など、自分の能力を発揮されています。 誕生日には、その方の好物の献立を提供している。	食べたいものを話題にしたり、新聞広告を一緒に見て食材・メニューを決定している。なるべく旬のものを取り入れ季節感を出している。セッティングや盛り付けなど出来ることは手伝ってもらえるよう声掛けに工夫している。年2回握り寿司店のボランティアに来てもらい目で見て楽しみ外食の雰囲気を味わってもらえるような行事も取り入れている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事、水分の摂取量をチェックしている。 毎月体重測定をしている。 血液検査などで、健康状態を把握して、栄養面を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。ご自分で出来ない方は、職員が介助させて頂いている。夜間、義歯を預かり、義歯洗浄をしている。 何か異常があれば、協力歯科医院に往診での治療をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用の状態により出来るだけトイレで排泄してもらえるように支援している。一人ひとりの排泄パターンを把握して布パンツ＋パット、オムツ類の負担の少ないものへと工夫している。	排泄パターン表を付け一人一人の状況を把握している。在宅では終日紙おむつ・パットだったが入所後布パンツに変更することが出来た方もいる。また多くの方が適切な誘導等で排泄の失敗は少なくなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のラジオ体操。水分不足にならないようにする。 ヨーグルトの提供、オリゴ糖を使ったりしている。 食物繊維の多い食材を使った献立の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人に声をかけ、確認してから入浴して頂いている。1週に2～3回入浴して頂いているが、現状は、入浴時間は希望に沿えているとは言えない。	車イスの方も2人介助で対応し身体状態に考慮し入浴工夫している。お湯は一人ひとりすべて入れ替え、個々の好みに合わせている。拒否のある方には声掛けを工夫したり違う日に変更したりとフレキシブルに対応している。夜間入浴は人手の問題があり難しいが、希望者にはなるべく最後の時間に入ってもらうなど出来る範囲で工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで、お昼寝される方もおられます。 夜も、ご自分のペースで就寝されています。 夜間の巡視を行い、睡眠状態を把握している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の服薬管理をさせて頂いています。服薬説明書をファイリングし、すぐに確認出来るようにしている。個々の管理ボックスに保管している。 服薬内容の変更や副作用については、主治医の指示のもと職員間で申送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の支度や洗濯干し、洗濯たたみ、掃除などの家事の手伝いを職員と一緒にして頂いている。自分の役割を持っていただいている。その際、感謝の意を述べている。 散歩や買い物、ドライブに行って、気分転換をして頂いている。　スロープからベランダに出て外気浴をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行かれる方や、買い物に出かける方もいれば、花壇の花を見に出たり、ベランダで外気浴、日光浴される方もいる。車椅子でスロープにでられ、プランターの花や野菜を見て外気浴をして頂いてる。センターの車で買い物にでかけられるように支援する。	坂道が多く近所の散歩も難しいので、車に乗って出かけた先で散策をすることが多い。系列の施設より運転手つきで車を借り年2回家族も共に近くのホテルまで外食に出かけるなど便宜を図っている。また「買い物に行きたい」等急な要望も可能な限りその時に個別で対応している。外出できない方にはできるだけ外気浴を楽しんでもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承を得て、お金を所持されている方は、自分の買い物は、ご自分でお支払いまでされる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じ、ご家族やご親戚との電話を取次ぎ、連絡が取れるように支援している。 段々耳が遠くなり、電話では会話しにくくなっているが、声を届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダにプランターで花、野菜を皆で育て、観賞、収穫の喜び楽しみを感じられる。 大きな窓があり、外の景色で季節を感じられる。リビングにご利用者と作った作品の展示をしている。リビングでメダカの飼育をしている。	リビングの大きなガラス窓からは緑の眺望がよく、日光が入り、明るく心地よい。フローリング床で新しい建物であるが、職員が寄付したレトロな家具が配置してあったり、畳スペースは卓袱台があり個々に思いのまま寛げる場所になっており、利用者にとっても落ち着ける空間となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、廊下にソファーや椅子、テーブルがあり、みんなの居場所をつくっている。 ご自分で生けられた生花をリビングに飾られている。リビングにメダカの飼育をしていることで、共通の話題ができた。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ、使い慣れた馴染みの物を持ってきてもらっている。 ご本人の希望で、部屋にソファーとテーブルを置かれ、自分の部屋で家族との面会の時間をすごされている。	全て和室の畳使用の個室になっており、布団・ベッド両方が選択できる。また本人馴染の家具など自由に持ち込みレイアウトすることも出来る。好きな写真を飾り、作った小物類が飾ってあるなど利用者一人一人の好みや思いに合わせた部屋となっており居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に、自由に生活できるように、導線を考え、日々改善に取り組んでいる。 安全、自立を考慮して手すりなどの位置を取り替える工夫をしている。		